

メタ・アナリシスにおける文献検索

野添篤毅（愛知淑徳大学図書館情報学科）

阿部信一（東京慈恵会医科大学医学情報センター）

磯野威（国立保健医療科学院研究情報センター）

裏田和夫（東京慈恵会医科大学環境保健医学講座）

山口直比古（東邦大学医学メディアセンター）

目的：メタ・アナリシス(meta-analysis)とは、これまでに行われた複数の研究成果を統合するための統計的解析手法であり、研究プロセスとして、文献データベースなどの各種の情報源を利用して解析対象となる特定テーマに関する研究論文を網羅的に検索、収集することが必要となってくる。メタ・アナリシスの研究論文の質を高めるために、D. Moherらのグループ(QUOROM: Quality of Reporting of Meta-analysis)はメタ・アナリシス報告についてのチェックリストを提案している。本研究ではこれらのチェックリストを背景として、実際のメタ・アナリシス論文における文献検索がどのように行われているかを分析した。

方法：本調査では、まず2002年刊行のメタ・アナリシス文献1,064件の中で、MeSHシソーラスのサブカテゴリC 6 (Digestive System Diseases)とE 2 (Therapeutics)に含まれるシソーラス用語が付与されている文献について、C 6カテゴリ文献59件、E 2カテゴリ文献124件、計183件を分析対象とし、新たに作成した文献チェックシートを用いて原論文から各種のデータを抽出した。

結果：1) 文献検索に利用された情報源：メタ・アナリシスのために使用されたデータベースとしてはMEDLINEが最も多く、分析対象の95.1%、174件を占めている。次はCochrane Libraryに含まれる各種データベースで79件(43.2%)、EMBASEは74件(40.4%)、看護学文献データベースCINAHLは34件(18.6%)が利用されている。複数のデータベースの併用例としては、MEDLINE、EMBASE、Cochrane Libraryで32件、17.5%であった。2) 検索過程の記述：対象論文のうち74.3%、136件で検索語の記述があったが、検索式を明示したものは21.3%、39件にすぎなかった。3) 検索文献と採用研究数：メタ・アナリシスのために採用された文献数は、最小6件から最大370件と記述され、1件から30件の範囲で140文献、全体の76.5%を示した。

考察と結論：調査対象の95.1%が文献検索のツールとしてMEDLINEを使用していた。これはもちろんPubMedによって無料でこのデータベースが容易に使えることと、臨床分野でのMEDLINEの知名度の高さであろう。また、MEDLINEとCochrane Libraryの併用例も76例であったことは、Cochrane Libraryのevidence-based medicineにおける情報源としての信頼性が評価され、多くのメタ・アナリシスに利用されたのであろう。

本研究での分析対象文献はMEDLINEデータベースで抽出した英語論文であり、ここに各種のバイアスが存在する。今後は、EMBASE、CINAHLなどの他のデータベースの利用、日本で生産されるメタ・アナリシス文献での分析を考える必要がある。

(本研究は平成15年度厚生労働省研究費補助金(丹後俊郎班)によるものである)